

## 第1回研究会での指摘を踏まえた整理

◆フューチャースクール推進事業の実証研究における「協働教育」の考え方

「協働教育」とは、学校現場でICT<sup>\*</sup>を効果的に利活用し、児童がお互いに教え合い、学び合う形態の教育手法を想定している。

⇒ICTの利活用により、授業における双方向性が高まり、学習に対する意欲・関心や知識・理解が高まることが指摘され、特に初等中等教育において、学力の向上が認められつつあるが、ICTを利活用した情報共有と協働教育によってより効果的な学習とこれからの社会で必要とされる能力を育てることが期待される。

※ 無線LANでつながれたタブレットPC、インタラクティブ・ホワイト・ボード等ICT機器

## 【実証研究において想定しているシーン】

- ・タブレットPCや無線LANを活用して教員と児童、児童同士が双方向でやりとりを行う。
- ・複数の児童がタブレットPCを活用したグループ学習や共同学習等によって作成した文章や図・絵等を、教員が簡単な操作でインタラクティブ・ホワイト・ボードに表示し、全員で討論する。
- ・協働教育プラットフォームを活用し、実証フィールド間において、デジタル教材等の共同利用や協働教育の実践に係る情報の共有等を行う。
- ・学校ポータルサイトや無線小型端末等を活用し、学校と家庭との間の情報共有、学校の授業と家庭学習の連動等、学校教育と家庭教育の連携を図る。



